青パパイアの調理の手本を見せるスダトーンさん

の飯沼健子ゼミ生ら30人

経済学部国際経済学科

指導は交換留学生

て調理する。この日のメ に香草をふんだんに使っ

ューは、青パパイアの

初のミュージカルで熱演する小山内ゼミ生

### 経済・飯沼ゼミ生

## ラオス料理に挑戦

チャレンジし、食事会を 館の食堂でラオス料理に フシー・スダトーンさん。 立大学文学部日本語学科 からの交換留学生ブンヤ か6月13日、国際交流会 いた。指導はラオス国 飯沼教授はラオスやタ | や肉、魚、野菜をベース

ラオス関係者と交流する ドにしており、ゼミ生は 教授から聞いたゼミ生が 機会が多い。スダトーン 希望し実現した。 さんが料理好きだと飯沼 「ぜひ教えてほしい」と ラオス料理は、もち米 | らラオス製の陶の臼と棒

状の杵を使うなどして料

的家庭料理で、ゼミ生た のデザート スープ▽果物とココナツ め (ラープ) ▽タケノコ ちは慣れない手つきなが ン)▽鶏ひき肉の香り炒 サラダ(タムマークフ いずれもラオスの代表 マニラ氏らも加わり歓談 員教授のサイポン・コン

思うが、機会があったら をかけて丁寧に作る。 材選びから調理まで時間 め、自らひき肉にして臨 行って肉をブロックで求 会前日、都内の専門店に が繰り広げられた。 ぜひ試してほしい」と言 んだ。「ラオス料理は食 本人にはなじみが薄いと スダトーンさんは食事

完成したラオスの家庭料理 に舌つづみを打ちながら楽 しく語り合うゼミ生ら

理に挑戦した。スダトー ンさんの見事な包丁さば | た。 舌つづみ打ち

の食事会には、飯沼教授 や来日中の商学部海外客 完成した料理を囲んで

飯沼ゼミ長の加藤力丸

さん(3年次)は「ラオ」まった」と話した。 理をすることで交流が深 段、ゼミの活動は資料の 断然おいしかった。 輪読や発表が主だが、料



# |きには感嘆の声が上がっ | ス料理を食べたことはあ るが、今日の料理の方が 神 田

丰

ヤン

を想定した的に水を当て | と防災袋で作る非常食ナ

学生たちはホースか

ポリタンの料理指導を担

当した。代表の中田千聖

さん(法3)は「これを

え、防災訓練や応急救護 地震や火災発生に備

放水消火訓練では、 ど防災訓練車」を使った

訓練 火災

修神田ボランティア)

一の大切さを認識してほし

学生団体のSKV(専 | 機に自分の身を守ること

車の内部に描かれた

は

SAIフェア」が6月28 を体験する「第7回BO 日、神田キャンパスで開

加。神田消防署員の指導 などを疑似体験し、消火 揺れや煙が充満した状態 を受けながら、震度7の 方々など151人が参 学生、教職員や地域の AED取り扱い、

一が役立つことを知った。 を学んだ。担架作りの参 加者は「身の回りのもの 頭に入れておきたい」と 時に適切に行動する方法 物干しざおと毛布を利用 た担架作りなど、非常 神田で清掃活

今回初めての「まちか

とも

10回目。時折雨がぱらつ

動

l e a n

神田キャンパスでのC | ャツを着て、火バサミや



炊き出しの豚汁を提供するSKV

ャンパスで行われた。 n」が7月6日、神田キ

学

警察署の署員、本学教職

員など約200人が参加

ンバーは「ゴミの総量は 参加しているSKVのメ 街にゴミは少なく、毎年

地元の町会の方々、神田

9 Clean

地域清掃活動

ボランティア)のメンバ く中、SKV(専修神田

> |の3方向に分かれて歩い 駅、神保町駅、九段下駅 ンパス最寄りの水道橋 ほうきを手に、神田キャ

雨の影響もあってか、

ミを拾った。

て、キャンパス周辺のゴ 生と地域の方々が協

した。

参加者はそろいのTシ

の7割程度」とみる。そ

いつものクリーンタウン

カセットボンベなどが捨 れでも中には使用済みの

てられていた。

した髙野良太さん(経営

サークルの仲間と参加

科の小山内伸ゼミ(ゼミ を上演した。 グシアター201で初め 田キャンパスのラーニン 生36人) は6月24日、 て創作ミュージカル 『4 1 STORIES ゼミ生の内田里奈さん 文学部日本文学文化学 が担った。『明日はエイ 劇中歌8曲のうち7曲は プリル・フール』など、 小山内教授が作曲した。

STORIES J

う向き合っていくかを問 も訪れ、学生たちの若々 うミステリー仕立ての物 しい演技や歌を楽しんで 開で創作劇を披露。

文・小山内ゼミ

たもので、構成、演出、 植光彦文学賞を受賞した 篔論文・文芸作品コンク (4年次) が昨年度の懸 -ル(学生部主催)で柘 の重大な秘密が隠されて その話の中にはそれぞれ いのない「ガールズト いた…。4人が過去とど ク」を繰り広げている。 ・フールにまつわるたわ 女子4人がエイプリル

を作る側の経験をしたい 評を書くことを目標とし 理解力、表現法を磨き劇 考察や分析手法を学び 日本の演劇作品につい 教授の指導の下で、現代 としても活躍する小山内 ジカルなどの演劇評論家 る小山内ゼミは、ミュー 劇評を書くために芝居 演劇好きが集まってい かった。限られた条件の 3回の全体練習をこなし がいかに大変なことか分 は舞台を終えて、「一つ 矢内有紗さん (3年次) 作詞も担当したゼミ長の の舞台を作り上げること て本格上演に臨んだ。 は90分という長丁場で 演出、主演と劇中歌の

を手にしてのゲネプロ公 とゼミ生は、昨年も台本

げることができた」と、

員が力を合わせてやり遂 学内上演だが、ゼミ生全

小山内教授を囲んで



なのにタバコの吸い殻が | だったが、路上喫煙禁止 2) は「全体的にきれい めてほしい」と話してい 目立った。ポイ捨てはや

力を合わせてゴミを拾 う参加者たち